

幸福駅周辺に観光施設整備

「恋人の聖地」拠点に

市、次期総計盛り込む方針

帯広市は、旧幸福駅周辺に新たな観光施設を整備する方針だ。地元の家や農産物、土産などを販売する「道の駅」のような複合施設を想定している。「愛の国から幸福へ」のキャッチフレーズで全国的なブームになった旧愛国、幸福両駅は7月に静岡のNPOから恋人の聖地に認定、両駅間の観光整備をハード、ソフト両面で進めており、旧幸福駅はその拠点に位置付けた。次期総合計画（2010年度から10カ年）に盛り込む方向。

市は恋人の聖地に認定された旧愛国・幸福駅を観光資源として再評価。今年度は聖地誕生の記念イベントなどを開催したが、滞在時間の短さや他の観光スポットとの連動が課題に挙げられていた。

市は来年度から旧愛国・幸福駅を含む観光資源を結びつ

け、点から面への観光振興を模索する。旧幸福駅は空港に近い立地条件から、道外の観光客を呼び込み、空港の活性化にもつなげる狙いもある。

新施設の具体的な整備計画や予算措置はこれからだが、現時点では旧幸福駅敷地内や

近隣の国道236号沿いなど

が整備地の候補に挙がっている。「道の駅」のような車で立ち寄れる観光スポットを想定、地域で収穫された安全安心な農産物や十勝ならではの食、体験型のイベント情報を提供する。

市は人口減や景気低迷などで今後の財政状況が厳しい見

通しにあり、建設や管理も含めて民間による実現支援を模索、経費削減に取り組む。新総計のほか、市産業振興ビジョン（指針）にも計画を盛り込む予定。

砂川敏文市長は今年度のまちづくり懇談会で「観光はこれから重要。交流人口の増加にもなる」と語り、観光振興に力を入れる姿勢をみせている。河合正廣副市長は「現時点では指針に盛り込む方向だが、整備は民間の活用も含めて経費削減に努めたい」と話している。

（中津川甫）